

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070900168		
法人名	医療法人 聖山会		
事業所名	グループホーム 合歡の家		
所在地	伊那市荒井3831		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市市上13-6		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が介護される一方的な立場におかず、一緒に過ごしながら【共に過ごし、喜び、支えあう】関係作りを大切にしている。
隣接する同法人の伊那神経病院から定期的な往診と緊急時には病院内の訪問看護により迅速に必要な処置と主治医の処置をうけることができ、利用者様やご家族様にも安心感をもっていただいている。また、病院内の他職種とも協力体制を築いている。病院、老人保健施設聖山会とは、様々な交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋の建物であるが、天井は高く窓もあるが明る過ぎず、共有スペースの食堂や一段高い和室を囲むように各居室が配置されている。収納場所も充分取られ、建物内部はすっきり片付いており、十分な広さは車椅子の使用にも支障がなく、個々の利用者に合わせて設備が随所に感じられる。ゆったりとした空間で、ゆったりと笑顔で語り合い、待てる力を出し合いながら過ごされる利用者の姿は、家族にとって何よりの安心となり、事業所への信頼に寄与している。
地域とのつながりに、今年度は職員全体で取り組み、様々な場面で地域の方々との関わりが増えて交流も当たり前になり、職員の意識も変化している。
今年度、重度化した場合の対応に関して事業所の方針を明文化し、家族にも説明し現時点での同意を頂いている。病院、老人保健施設と隣接しており、日々の散歩コースにもなっており、様々な協力関係も心強い点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが強がり深まり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示して周知している。また、新人職員にはオリエンテーションを行い周知している。定期的に、ミーティングを開き確認している。	理念は、事業所独自の物が作成され、職員トイレの前やホール内に掲示されており、職員会やミーティングの折に理念に戻って話し合い、確認する機会が度々ある。	地域との関わりを重視し、日々実践にあたられているが、理念も作られてから年数が経過しており、地域との関わりを含めて見直しを検討されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出たときには、声を掛け合っている。地区の運動会、文化祭に参加させていただき作品を出品させていただいた。近隣の方に、花や野菜等の差し入れをしていただいたときに、一緒にお茶を飲んでいただいている。	地域とのつきあいについて、今年度職員全体で検討し意図的に取り組み、行事や金銭にも地域の方にも自然に声かけするようになった。地区の行事にも参加させて頂き、事業所の教会には地域の方に参加して頂いている。法人の保育所や地域の子ども神輿など子どもたちが来所し、中学生の職場体験も受け入れている。押し花などのボランティアの方も来所されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの位置づけや認知症の人の理解、支援方法を明確に地域の方に向けて活かしているとは言い切れないが、地区行事へ参加したときには理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で行われているサービスの内容、各係の活動を報告させていただいている。又、話し合いの中で気付いたことや意見を、サービスの向上に活かしていけるよう努力している。	今年度は4回開催し、家族、行政、民生委員、地区総代などの方が参加され、議事録も記録されている。避難訓練についてなど意見も活発に出され、サービス改善に繋がっている様子が伺われた。	運営推進会議のメリットを活かし、内容によって委員を消防団や駐在さんをお願いするなど、構成委員の再検討と回数の増加を検討された。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会を通して実情や、支援内容を伝えている。又、合款の新聞「ほっとねむ」を配布して生活の様子をお伝えしている。介護相談員がホームを訪問した際アドバイス等を受けている。また、地域包括の連絡会議に出席し情報交換をしている。	運営推進会議には市の高齢者介護課の担当者や包括職員が来所し、それ以外にも日頃から疑問点など電話などで相談し、助言を頂いている。市の介護相談員は年に2回2人で来所している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加することはできなかった。法人内で研修会が開催されているので積極的に参加できる体制を作り学んでいきたい。又、生命に危険がない限り拘束は行っていない。	外部研修に参加してはいないが、法人内の研修には参加し、欠席者はDVDで自己学習している。玄関は日中は解錠しており、言葉の拘束にあたるような事など、具体的にミーティングの中などで検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加することはできなかった。今後は、研修に積極的な参加をしていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状ではできていません。今後は、研修に参加し理解を深めていきたい。必要なときは、同法人の支援相談員に助言をってもらう様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに対する考え方や取り組み、入居から退居を含めた事業者の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその想いを察し、利用者本位の運営を心がけている。日々ミーティングを開き、意見が特定の職員に埋もれないようにしている。	利用者のお話をゆっくりとお聞きするよう、心がけている。ご家族からは、利用料の毎月の納付時や面会時などに、お話を伺っている。運営推進会議にも、全家族に参加をお願いしている。利用者の様子は、担当が書いたお手紙を請求書に同封している。	職員の名前と顔写真の掲示または名札着用など勤務する職員の名前がわかるような工夫を検討されたい。また、事業所独自のアンケートの実施など利用者や家族の意見、要望を把握する方法の工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人の目標管理設定手法を導入し、年1回の面接時に聞き取りを行っている。又、毎月改善提案シートを提出。ミーティングの場で意見交換を行い改善に努めている。	改善提案シートは、職員から毎月提出され、職員会等で検討され、業務の改善などに繋げている。管理者と職員の個人面接は年に2-3回実施されている。法人全体の情報は、院内メールをプリントして共有しており、予算など職員会で検討して法人全体の会議に望んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の目標管理設定手法、改善提案シートを通して行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理、改善提案シートを通して行っている。また、外部の研修会へ参加し、参加できなかった職員には伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諸事情に交流の機会を作ることはできなかった。今後は、取り組んでいきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の困っていること、不安に思うこと、要望等、ご本人の気持ちをしっかりと聞き安心して過ごすことができるよう信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の気持ち、ご家族様の気持ち等、利用開始時期にお聞きしている。又、随時不安に思うこと等に耳を傾け関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と御家族様のニーズを把握し、事業所としてできる対応を考え、他職種と連携し、必要なサービス利用を受けていただけるよう対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに暮らすものとして、お互い協力しながら穏やかに暮らせるよう関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはその都度、利用者の健康状態や、ご本人がお話しされたことや思いを伝えていく。また、ご家族様のご本人への思い等を伺い、ご家族と施設がご本人を協力して支えていけるよう協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの友人関係、近所付き合い等が継続できるよう、ご家族の承諾のもと支援している。	ご本人の体調やご家族の都合などに配慮しながら、なじみの美容院に出かけたり、実家に出かけてお茶を飲んでくるなどの支援を行っている。お盆に外泊される方もおられる。面会時の記録方法について検討中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を把握し、孤立せず共同生活が送れるよう、職員間で情報を共有し御家族とも相談する機会を設け、支えあえるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院となり退居するケースが多いため、関係性の継続は難しいが、お手紙等で状態をお聞きするようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中からご本人、御家族の思い、意向の把握に努めている。独自のスクリーニングシートを活用し、暮らし方、思いを把握するよう努めている。	事業所独自の詳細なシートやひもときシートなど活用しながら、把握に努めている。忘れてしまうことや遠慮もあり、本人のふとした言葉と仕事から、体調不良に気付き、受診に繋がった事例を伺った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様からは、日々の関わりや会話の中で把握に努めている。また、日々の様子を御家族にお伝えする際、入居前の様子がどうであったかをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内での1日の生活や、いつもと違う言動、状態は職員間でミーティング、記録を通じて共有するようにしている。またご本人が持っている力を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自のスクリーニングシートを活用して課題分析を行い、その結果を基に介護計画を作成している。また、ご家族、関係者の情報も介護計画に反映させている。	介護計画は、半年に一回または必要時に見直し、担当者を中心に職員会やミーティングで検討し、家族にも意見を伺い同意を頂いている。課題分析は、独自のシートやひもときシート、日々の記録などを活用している。ミーティング等で検討されたことも記録に残されている。	計画作成時の課題分析は充分されているが、日々の記録が計画に基づいたものになると、課題分析によりいかし易く、家族にも分かり易くなると思われる。日々の記録方法の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とミーティングを基に定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に心身の状態の変化が見られたときは、隣接する同法人病院の訪問看護師に相談して、医師より迅速かつ必要な治療が受けられるよう協力体制を築いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員の方と話す場を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様とご家族様に主治医を選んでいただいている。受診前に、必ずミーティングを開き、状態はどうか、前回と変わったことはないかを個人ノートに記載し、主治医に報告している。	主治医は利用者、家族希望となっており、往診して下さる主治医が半数であり、受診は家族同伴を原則にしている。受診前日には、往診前ミーティングを実施し、状態等確認している。訪問看護師が訪問しており、協力歯科医も必要時、往診して下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する同法人の病院の訪問看護師に報告・相談は常に行い、必要な医療が迅速に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、情報提供書をお渡ししている。入院後は、心身の状態の把握に努めており、病院の相談員との連携も図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に関する指針(看取りを含む)」を作成し入居時に契約と併せて説明、同意を得ている。また必要に応じて家族と話し合い、事業所がどこまでできるか、御家族の協力はどこまで得られるのか、確認していくようにしている。	今年度重度化の指針を明文化し、ご家族等に事業所としてできることなど説明し、全員から現時点での同意を頂いた。看取りの経験もあるが、今後も状態に応じて、その都度ご家族、主治医など関係者と話し合いを重ねながら、取り組みたいと伺った。	本人やご家族の状況によって、ご家族の意思は変化するので、その都度の丁寧な対応と話し合いを期待する。また、合わせて職員の研修も計画的に取り組まれることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接する同法人の医師、看護師等に常時指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を計画、実施している。又、地域の方とは災害時協定書を締結し協力体制を築いている。	6月と11月に事業所独自で夜間想定避難訓練を午後実施している。今年度は、隣組長さんに参加頂いた。食料の備蓄もされ、夏祭り時に消防団の方に施設の見学をして頂いた。消火器、スプリンクラー、自動通報装置が設置されている。物干等も避難時に障害とならぬよう移動され、避難路も複数確保されている。	今年度から隣組長さんの参加もあり、協力体制が構築されているが、さらに近隣の方に避難訓練に参加して頂くよう呼びかける、備蓄食品の試食、連絡網の訓練など実践的な訓練となるよう検討される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ができないことを代行し、ご本人の言動を否定せず、その時の思いやお気持ちを考えながら言葉かけや対応をしている。	言葉かけについて職員同士でも話し合い、ミーティングなどで検討している。記録の保管場所はカーテンで区切り、配慮されている。「本人に確認する」ことを基本に、対応をその都度考えながら、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる利用者からは、ご本人の意思確認をしている。また、ご自分からの意思表示ができない方からは、表情や発音前の生活歴、大切にしてきたこと、性格等を想像して、声かけ・働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが優先させることはせず、ご本人の気持ち、体調、思い等を大切にしながらご自分のペースでゆっくりすごせるよう支援している。必ず、意思確認をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着用する服を選んでいただいたり、理美容院等は、なれ親しんだところへ出かけている。また、可能な場合は来園していただくなどご本人の希望に沿っていけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てるときに、嗜好や季節の食べ物等を相談しながら献立を立てている。また、調理を一緒に行い片付け等は、利用者と共にやっている。	献立を決めて、買い物リストを作成し、週に4回ほど、利用者と共に買い物に出かけ、時には利用者の食べたい物も追加している。誕生会や季節の物にも配慮している。全員で回転寿司や数人でドーナツ、フルーツパフェを食べに出かけ、野菜菜漬けや餅つき、梅漬けなども一緒に実施している。法人内の栄養士にも助言を頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食欲等を見ながら1日の中できちんと栄養が摂取できる様にしている。水分摂取には特に気をつけ、十分に摂れないときは補助食品等を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	十分に口腔清拭ができない方には介助し、ご自分でできる方には声かけをして清潔の保持に努めている。口腔内の状態によっては、歯科医師の往診を受け指導していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の羞恥心、プライド等に配慮しながらトイレでの排泄を促している	布パンツで自立の方も半数近くおられ、入居直後に混乱した方も、場所が分かる様になってからは自立されていると伺った。トイレには、手書きの大きな「トイレ」の表示がある。羞恥心等に配慮し、汚れた洗濯物の受け取りなども細やかに配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取を心掛けて、トイレでの排泄を促している。食事には、野菜を多く取り入れバランスの良い食事となるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な流れはあるが、利用者様の体調や気分等配慮している。お一人の入浴時間は体調に配慮しながら時間に追われることなく入浴していただくよう努めている。	入浴は最低でも週に2回以上になる様に、希望の時間、体調に配慮しながら支援している。昨年、リフトを設置され、現在も使用中の方がおられる、安心感がある。同性介助に配慮し、本人に確認している。季節のゆず、みかん、菖蒲湯なども楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、ご本人の希望時間で決めている。就寝前は、安心感を持って休むことができるような声掛けをしている。午睡は、自室とは限らず休みたい場所で休んでいただくように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。処方変更等がある場合は、必ずミーティングで職員に周知し観察点の確認をしている。服薬介助するときは、間違えないよう名前の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の言葉やご家族からの情報を活かし、趣味やこれまでに行ってきたことが活かせるよう支援している。季節の行事、地域の風習等も取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出の機会を設けている。ご家族の協力も得ながら出掛ける機会を多く取り入れている。周辺の散歩等にも積極的に出掛けている。	隣接の法人建物を一周する散歩コースがあり、梅、桜など季節の花が楽しめる。個別に誕生日に実家に出かけたり、あじさいや菊花展などのドライブに出かけている。夏祭り、演奏会に隣の法人まで出かけ、バレンタインには、日頃お世話になっている方達に、皆で手分けしてご挨拶に出かけてきたと伺った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。生活の消耗品の購入はご家族様の了解のもと、職員と一緒に買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音には注意を払っている。居住空間の清潔面にも気をつけている。心地よい空間、環境作りには工夫しているが、さらに努力をしていく必要もある。	音や明るさなどにも配慮され、心地よくゆったりとしたソファが複数置かれている。壁には、利用者作の手造りの季節の飾りが掛けられ、小さな鍵人形も飾られている。居住空間は、すっきりと片付き、花の鉢物も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内には3か所のホールがあり、それぞれに好きな場所で過ごせるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がなじんだ居室空間となるようそれぞれ大切なものを持ってきていただいている。また、居室のレイアウトはご本人と相談しながら行い心地よい環境作りに努めている。	各居室は、それぞれ違う花のスタンドグラスの入った引き戸で、希望で名前が書かれている方もおられた。居室は半分畳敷きの部屋、和室と床にベッドの3種類で、布団の方など個々の好みをご家族と相談しながら、アレンジされている。花の鉢、写真など思い思いの物を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の場として送れるよう努めている。ご本人の能力を活かし、支援の手が先回りしないようにしている。		

目標達成計画

作成日: 平成25年3月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	5月から12月までの間に家族会や敬老会などの行事と併せて計4回開いている。1月から4月までの間に開催していないことや、地域との連携を築くうえで構成委員を広げていく必要がある。	年6回の開催にする。	25年度から2カ月に1度、奇数月に開催する。できるだけ多方面の住民を招いて、災害への対応や暮らしぶりについて情報交換をする。	12ヶ月
2	35	避難訓練に隣組の組長が参加して下さるようになったが、災害や事故への対応の連携という点ではまだ十分とは言えない。	合歓の家の建物内や敷地、入居者の様子を近隣住民に知ってもらう。	地元の消防団員や住民らに呼びかけて、避難訓練を見学してもらい、情報交換をする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。
目標達成計画